

1 令和3年度全国学力・学習状況調査（現中3）結果より

〔本校と市、県、国との“差”〕

表1
R3全国学力・学習状況調査

	国語	数学
本校	58	49
全国差	-6.6	-8.2
国比較	▼	▼
全国	64.4	57.2
県差	-6.0	-7.0
県比較	▼	▼
県	64.0	56.0

▼:全国・県より下

令和3年度に実施されました全国学力・学習状況調査（中学3年生）の本校の結果は、上記の表1とグラフ1になります。

国語、数学とも市平均、県平均、全国平均を下回る結果となりました。今回の結果を職員でも分析し成果・課題についてまとめました。主なものを紹介します。

○成果

〔国語〕 国語では、「話す・聞く能力」についての小問の正答率が、全国平均とほぼ同じであり、他の領域と比べて良い結果であった。

〔数学〕 数学では、「数学的な技能」についての小問の正答率が、全国平均に近い値であった。

○課題

〔国語〕 国語では、「読む能力」についての小問の正答率が、全国平均を大きく下回る結果であった。

〔数学〕 数学では、「数学的な見方や考え方」「数量や図形などについての知識・理解」についての小問の正答率が、全国平均を大きく下回る結果であった。

◎対策

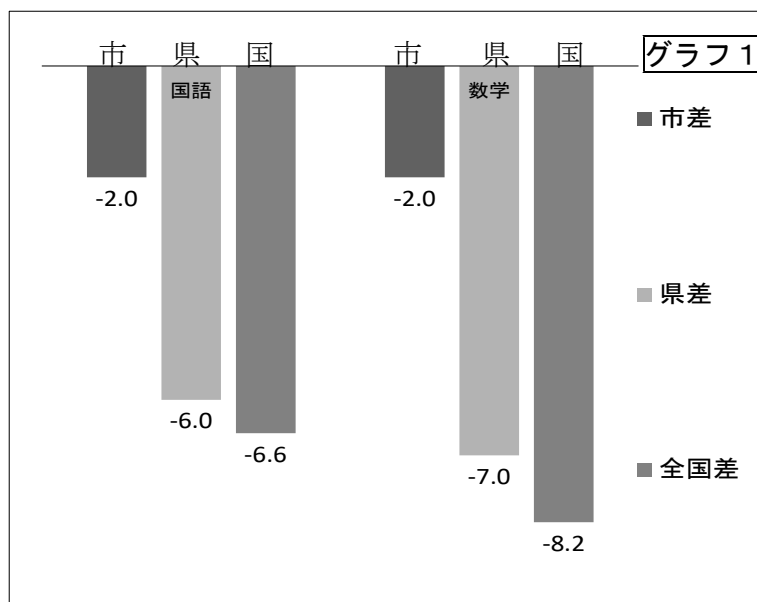
〔授業〕 「めあて」「まとめ」の整合性に留意するとともに、振り返りや自分の言葉でまとめること、小問による見届け等に力を入れていく。

題意の捉え方や条件の見出し方、類推の仕方、基礎・基本的な部分を教員が解説しながら取り組む時間が必要であるので、通常授業の中で、良問に取り組む時間を設定していく。

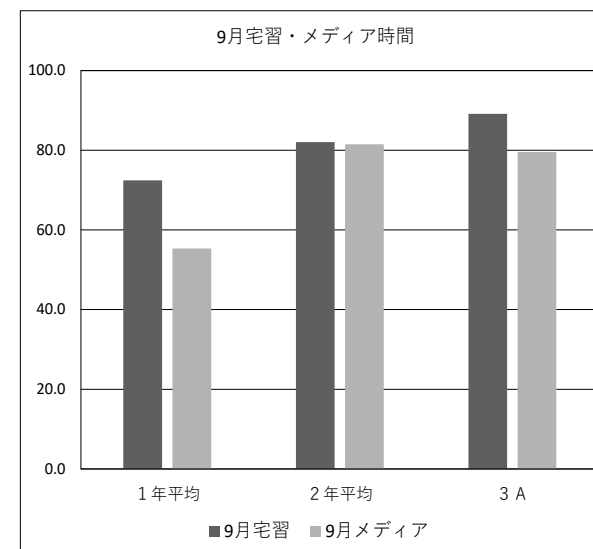
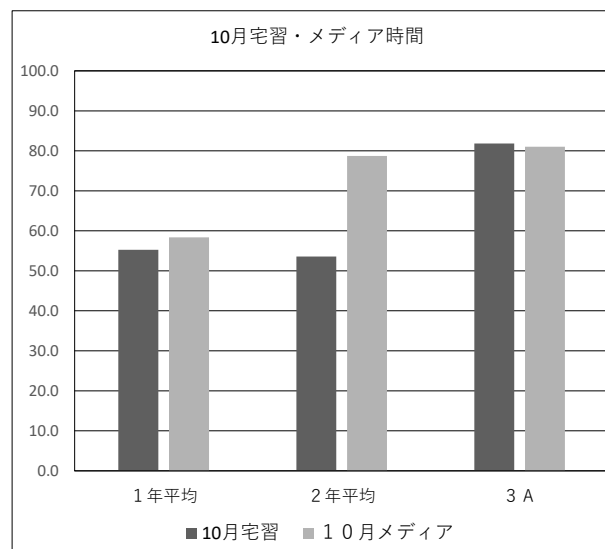
〔授業以外〕 県から配布されている習熟問題「よか問」や「web問題」など、通過率の低い問題はテスト等に出したりして繰り返し取り組ませる。

朝学習（週2回）の時間に、月1回コグトレ（認知ソーシャル・認知機能強化・認知作業強化トレーニング）等の読解力をつける問題に取り組ませ、「読む能力」の育成に努める。

目標時間を超えて家庭学習ができるように、宅習・メディア時間表の集計をもとに指導する。



2 9月と10月の宅習時間とメディア時間の集計結果より



**スマホ等利用「午後9時OFF, 60分以内」
学習時間 「1年90分, 2年120分, 3年150分」**

学 年	9月宅習	9月メディア	10月宅習	10月メディア
1年平均	72.4	55.3	55.3	58.4
2年平均	82.1	81.5	53.6	78.7
3 A	89.2	79.6	81.8	81.0

※令和2年度2学期テスト期間の学習時間の平均は1年生146分、2年生110分、3年生202分

9月と10月の宅習時間とメディア時間の平均を集計してみると大幅に、学習時間が少ないことが分かります。宅習時間の目標（最低ライン）は、1年生90分、2年生120分、3年生150分です。それに対して、9月と10月の宅習時間は、1年生72分・55分、2年生82分・53分、3年生89分・81分になっています。10月の学習時間の低下は注視すべきです。学校では、やらなければならない課題の合計は1日平均90分程度に設定してあります。ご家庭での見届けもお願いします。

メディア時間については、「午後9時OFF, 60分以内の使用」を呼びかけていますが、1年生以外は、60分以上の使用になっています。スマホやタブレットへの依存度が学年が上がるにつれて多くなっていくことが分かります。1回スマホやタブレットを与えてしまうと元に戻すことが難しいことが分かります。スマホ・タブレットの使用について、再度、御家庭で約束事を確認してください。

令和3年9月15日現在
携帯電話（スマホを含む）の所持状況（百分率で示す）

学年	1年	2年	3年	合計
人数・%	33人・56%	25人・48%	15人・50%	73人・52%

左の表は、本校のスマホ保有率です。タブレットは含みません。小中高生にとってメディアとの共存が最も大きな課題と言えます。